

第3回「ゆめづくりまちづくり賞」受賞作品の概要

＜優秀賞＞ 2団体

◆再生古民家（浜屋敷）を舞台にした地域魅力発掘 （特定非営利活動法人 吹田歴史文化まちづくり協会）

住宅地の中に残っている古民家「浜屋敷」を活かし、市民相互の交流及び連携の推進、情報の提供等を行っている。

清掃ボランティアや案内人ボランティア等12のボランティアグループの協力により運営し、年間約70回の企画が継続的に行われ、来館者数は約2万人を超える。

また、浜屋敷で行われる活動やイベントは、専門会社等に任せるのではなく手づくりで開催しており、地域の新旧住民の交流も深まりまちづくりの核となっている。



吹田歴史文化まちづくりセンター『浜屋敷』



フラメンコを鑑賞する観客



浜屋敷の中の様子



毎月開催される子どもイベントニコニコ広場

◆近代建築をはじめとした歴史的建築物等の創造的活用による北船場の都市再生 （船場アートカフェ）

北船場には、1920～30年代に建てられた近代建築をはじめ、多くの歴史的建造物が多く残る。これら複数の建築をイベント等により面的につなぐ事で、地域全体の個性・魅力を創出している。

2006年から毎年「船場建築祭」を開催し、歴史的建築物の魅力発信を通し無機質なオフィス街というイメージを塗り替え、歴史・文化の街として北船場のイメージを発信している。

当初は、船場アートカフェの主導により始まったが、地域住民の参加が徐々に増え、今年、地域住民が企画から参加するなど地域に定着した活動に進展している。



綿業会館（重要文化財）



北船場の近代建築（赤印の建物）



芝川ビル（1927年建設）



高級料亭吉兆本店で餅つきを開催

＜奨励賞＞ 3団体

◇大学生による新今宮観光インフォメーションセンターの運営 と国際ゲストハウス地域づくりに向けた社会的実践 (阪南大学国際観光学部 松村研究室)

日雇い労働者が宿泊する簡易宿泊所の利用者が減少する中、外国人観光客の宿泊を取り込むため、ウェブサイトやパンフレットの多言語化の実施、着地型街歩きツアーの開催等地域の活性化に向けた取り組みを行っている。

新今宮観光インフォメーションセンター(TIC)は、当初スタッフトレーニングや施設の内装レイアウト全てを学生が手づくりし、2009年1月よりオープンした。これまでに約260日間運営し、利用者は約5千人にのぼり国際ゲストハウス地域の創出に寄与している。



TICを利用する外国人観光客



TICや周辺ホテルに掲示している案内ポスター



街歩きツアーの参加者

◇上方伝統芸能を活用した大阪人としての「誇り」を喚起するまちづくり (財団法人 山本能楽会)

上方芸能を多くの人に体験してもらうため、月に2回一晩に4種類の上り芸を公演し、落語家が司会・解説を担当する「初心者のための上方伝統芸能ナイト」を公演している。

公演は、能や狂言だけでなく、文楽、お座敷遊び、活動写真等さまざまな上方芸を同じ舞台上で演じている。また、全ての公演において、日、英、中、韓の4カ国語による字幕の掲示やパンフレットを配布しており、外国人観光客も多く取り込むなど文化を観光資源として魅力を強く発信している。



英語版、中国版のチラシ



芸能体験する外国人観光客



毎年大晦日に開催する「年越し特別編」の公演

◇「みんなの美しいまちづくり(MUMプロジェクト)」の推進について

(兵庫県小野市)

小野市の市花「ひまわり」がハーブであることから、ハーブを使った、みんなの美しいまちづくり「MUMプロジェクト」を推進し、環境・家庭内・体内緑化をテーマとして地域力向上に取り組んでいる。

小野市内の道路や公共施設の周辺を中心にまちにハーブを増やし、苗植えや植栽を市民のボランティアグループが行っている。また、幼稚園や小学校、中学校ではハーブを使った食育を行うなど幅広い場所で活動を展開している。



ボランティア団体が管理している図書館周辺の花壇



ハーブを使った幼稚園児の食育



ボランティアグループによる苗植え



ボランティアグループによる植栽